

遠隔機関監視技術を活用した次世代内航船の研究開発

事業者：BEMAC株式会社、ナブテスコ株式会社、株式会社MTI、日本シップヤード株式会社、日本海事協会
補助期間：令和3年度～令和5年度

技術開発の目的

内航船の船員不足問題に対して、陸上機関監視によって安全性を向上させ、本船機関士の労力を軽減する事で省人化を実現する方法が考えられます。陸上監視者の意思決定をサポートする為に、迅速かつ正確に異常原因を推定するシステムの開発が必要となります。

技術開発の概要・成果

迅速かつ正確な判断の為にには運転データの定量的な分析が必要となる為、シミュレーションモデルによる計算結果と実測値を比較分析する事で異常原因を推定するシステムを開発しました。またデータ収集装置及び陸上監視装置を実装して、陸上監視センターでの機関遠隔監視トライアルを実施しました。

- ◆ 遠隔データ監視装置：令和6年度より内航船主への販売促進を開始します。
- ◆ 船用機関自動運転装置：シミュレーション計算値と実測値の比較表示機能について、信頼性を向上させて令和7年度までのリリースを目指します。

